



熊本大学広報誌

熊大通信

vol.

39

2011 WINTER

特集Ⅰ

「明日のくまもと」を考える ～公共政策コンペ～

特集Ⅱ

キャンパスへようこそ! 科学の不思議と楽しさを伝えたい

提案内容

○OKEYAMACHI-MALL

○mushanyoco

○未来像

熊本市の地域住民

現状・目的

運動の体系

運動の目的

運動の意義

運動の推進

運動の普及

運動の発展

運動の持続

運動の向上

運動の充実

運動の充実

運動の充実

運動の充実

運動の充実

運動の充実

運動の充実

運動の充実

運動の充実

運動の充実

運動の充実

運動の充実

運動の充実

運動の充実

運動の充実

運動の充実

運動の充実

運動の充実

運動の充実

運動の充実

運動の充実

運動の充実



国立大学法人
熊本大学

Kumamoto University



CAMPUS SCENES キャンパスの風景

熊本大学附属図書館

蔵書数およそ130万冊を数える、
黒髪北地区の附属図書館中央館。
学生はもちろん、学外からの利用者も多く
入館者数は年間約55万人にものぼる。

熊大通信 39

2011 WINTER

vol.



熊本大学広報誌 熊大通信

*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

【発行】 国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本市黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119
Fax.096-342-3007
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp


【編集】 熊大通信編集委員会
矢加部 和幸／委員長・政策創造研究教育センター
溝淵 園子／文学部
河野 順子／教育学部
岸本 太樹／法学部
渋谷 秀敏／大学院自然科学研究科
田中 智之／大学院自然科学研究科
米満 孝聖／大学院生命科学研究部
首藤 剛／大学院医学薬学研究部
田中 尚人／政策創造研究教育センター
西村 兆司／マーケティング推進部広報戦略ユニット

【制作】 株式会社カラースプランニング

CONTENTS

- 03 特集Ⅰ 「明日のくまもと」を考える～公共政策コンペ～
- 09 研究室探訪 教育現場の声を知り、学び合う
実践と理論の統合を目指す
教育学部 国語教育科 河野研究室
- 11 特集Ⅱ キャンパスへようこそ！
科学の不思議と楽しさを伝えたい
- 13 国際交流 熊大で学んだ技術を生かし
ベトナムの水環境を救いたい！
- 15 卒業生ジャーナル
- 17 Information

表紙／公共政策コンペで8チームが提案したアイデアの数々



「明日のくまもと」を考える ～公共政策コンペ～

公共政策コンペとは、学生や自治体職員の参加を募り、それぞれの視点で考えたユニークな政策案を提案し競うものです。今年度は、熊本市の政令指定都市化や、九州新幹線開業を目前に控えるくまもとを元気にするための、8つのコンペ案が提示されました。公共政策コンペは、学生や若手実務者たちの学びの場であるだけでなく、地域の課題やその解決策を共有し、人々を勇気づける場でもあります。今回は、本学からコンペに参加した「天草宝島研究会」と「チーム RED」の取り組みを題材に、その教育効果や公共政策の重要性を解説するとともに、教育・研究・創造の場を提供する地域のシンクタンクとしての本学の活動をご紹介します。



「政策コンペで地域と学生に刺激を与えたい」と語る、政策創造研究教育センター 河村洋子准教授

実践的な知の創出 審査員からも感嘆の声！

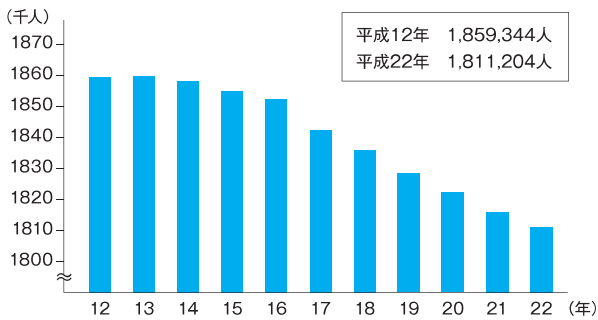
「公共政策コンペ」は、政策創造研究教育センター（以下、政創研）が中心となり、昨年度から実施されているものです。今年度2回目を迎えたコンペでは、「みんなで考えよう！くまもとの将来」をキャッチフレーズに、「持続可能な地域社会の形成」という課題に対し、学生や若手自治体職員など8グループが参加しました。

10月31日（日）、工学部百周年記念館にて、それぞれのグループが独自の視点で地域の課題の解決策を発表。県企画振興部長、熊本市副市長、九州産業交通ホールディングス顧問、熊本日日新聞社社会部長、政創研教授ら5名の審査員が審査にあたり、優秀な政策提案を表彰しました。審査員は「若者らしい、夢のある提案ばかりだった。その提案実現の可能性が評価のポイントとなった」と講評。

「このコンペを、地域の活性化や持続可能な発展に貢献できること、明日のくまもとを形づくる政策や整備案を、多くの人が実感できる機会にしたい」と、政創研の河村洋子准教授は語りまします。「昨年度は学生のみでの参加でしたが、今年度は若手自治体職員にも参加

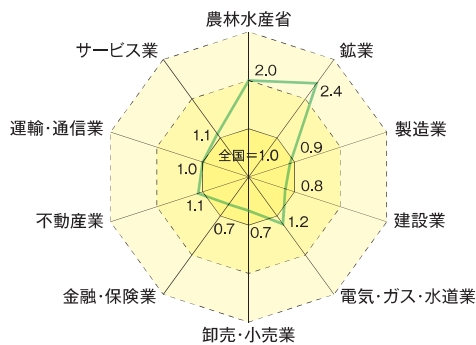
◎ 人工と産業からみる「くまもとの今」

■ 人口の推移 (平成12年～平成22年)



熊本県統計調査課「平成22年熊本県推計人口調査結果報告(年報)」

■ 産業特化状況(※特化係数で比較)



※特化係数=県内総生産の各産業別構成比/国内総生産の各産業別構成比
 (国内総生産の構成比は暦年値、県内総生産の構成比は年度値)
 全国の産業構成割合を1.0としたとき、特化係数>1ならば、全国と比較して、
 その産業の産業全体に占める割合が高い「特化した産業」といえる。

熊本県統計調査課「平成20年度熊本県県民経済計算の概要」

を呼びかけ、より実践的で多様なアイデアが集まりました」。

提案を導きだし、思いを伝えるすべてのプロセスが学び

一言で「くまもとを元気にしよう!」といっても、アプローチはさまざま。学生が授業の一環として学んだ内容から、現在すでに行政で取り組まれている施策まで、文系理系を問わず幅広い提案がなされました。「審査で重視されるのは、アイデアと確実性とのバランス」と語る河村准

教授。提案は、課題の重要性、科学的根拠と妥当性、ユニークさ、発表の明解さなど、さまざまな角度から評価されます。「ある程度のデータに基づき、現状を把握した上で提案が組み立てられているということが大前提。ユニークであつても、絵に描いた餅では魅力がない。研究的な視点を持ちつつ、独創的であることが求められます」。

また、政策の内容だけでなく、伝えたい内容を適切に伝える「プレゼンテーション能力も不可欠だと語ります。「エビデンスのしっかりした魅力的な提案を考え、説得力のあるプレゼン

テーションを行うというプロセスですが、大きな学びの機会になっていると思います」。

新たなつながりが生まれる場

今後、地域の人材育成の機会としても期待される「公共政策コンペ」。「開かれたコンペですので、自治体の職員研修などに利用してほしい。発表する機会があることで、自らの提案を評価してもらうことができ、職員のモチベーションを高め、企画力やプレゼンテーション力を磨く機会としての利用

価値は高い。ほかの提案に耳を傾けることが刺激となり、新たな交流が生まれることもあります」。

河村准教授は、「公共政策コンペを通して、未来のくまもとの地域づくりを担う人材、コミュニティー、ネットワークが生まれ、実社会を変革するような仕組みが提案されることが重要です」と力強く語りました。

以下、コンペの二つの案を題材に「明日のくまもと」について考えてみましょう。



グランプリは熊本県立大学の公共政策学研究室。八代市中心街の活性化について提案した



各チームのユニークな提案に、審査員からは質問が相次いだ。質疑に答えることもプレゼンテーション力を磨くための良い機会

中山間地域におけるソーシャルエンタープライズ
による地域づくり、天草市宮地岳町を例として

「明日のくまもと」を考える公共政策コンペ①
天草宝島研究会（大学院社会文化科学研究科学生と天草市役所職員の合同チーム）

汎用性のある
政策提案を目指して
課題に取り組む

大学院社会文化科学研究科学生と天草市職員との合同チーム「天草宝島研究会」は、過疎や高齢化が進む中山間地域の地域づくりについて提案しました。このテーマを選んだ理由について、同研究会の代表者である大学院社会文化科学研究科の水室健太郎さんは、「一つの特殊な地域の事例としてではなく、どの地域にも当てはまるような汎用性のある提案にしたかった。そういう意味で、過疎、高齢化が進む中山間地域の典型を示す天草市宮地岳町をフィールドに選び、この地域の政策を考える意義は、大きいと思いました」と語ります。

同研究会のメンバーは、地元の営農組合の協力を得て、現地調査やSWOT分析（※）を行いました。その結果、米のブランド化やナタネ油の特産品化

など農産品や加工品の販売促進、農家民泊を通じた都市との交流など、地域資源を活用した取り組みが一定の効果を上げていることが分かりました。

一方で、このままだと地域の担い手が高齢化し、活力が沈静化していくことも予想されると分析。このような状況で、今後も集落機能を維持し、将来に希望の持てるような地域づくりを支



地域づくりと活性化に取り組む宮地岳町営農組合の方々と、町が抱える問題点について議論を交わした

中山間地域におけるソーシャルエンタープライズによる地域づくり
～天草市宮地岳町を例として～
天草宝島研究会（水室健太郎・樺本昇一・王てい・長谷部俊之）

過疎化、高齢化の進展で疲弊している我が国の中山間地域において、天草市宮地岳町(熊本県)では営農組合を中心として地域づくりで成果をあげている。しかし、担い手の高齢化も進み、将来的には集落機能維持が困難になると予想される。そこで、本チームは宮地岳町の活動に着目し、新たな地域づくりの展開として、「ソーシャルエンタープライズ(社会的企業)」による地域づくりと、その戦略について提言する。

区分	H16.4.1現在		H25年予測	
	人数	構成比	人数	構成比
0～14歳	106	1.6%	5	0.2%
15～64歳	327	4.7%	173	4.1%
65歳以上	2653	39.3%	1772	57.7%
合計	4990	100%	3000	100%
世帯数	247戸		170戸	
うち高齢者のみ	70戸(28%)		95戸(54%)	

政策提言

中山間地におけるソーシャルエンタープライズによる地域づくり

ソーシャルエンタープライズ＝社会的企業
・・・社会の課題をビジネスの手法で解決する組織・団体。コミュニティビジネスを行ない、収益は地域に還元する。
その特徴として、地域社会の課題を解決するという公共性、企業としての側面からの収益性、地域住民で経営方針を決めるという民主性がある。特に民主性は最も重要である。

ソーシャルエンタープライズ

意義：失われた行政(サービスの担い手としての機能)、議会(議論の場としての機能)を住民自らの手で再生すること
課題：タイムリミットが迫っている。継続性(収益性)が不安

(戦略) グローバル企業との連携

(中山間地域のメリット)
・新たな市場開拓で得た地域開発、商品開発のノウハウを学べる
・豊富な人材や人脈を利用できる
(グローバル企業側のメリット)
・社会貢献ができる
・メディアからの注目度が上がる
・優秀な人材の確保ができる
(行政の役割)
・地域と企業を繋ぐコーディネーション
・ソーシャルエンタープライズの信頼性の補充
・企業のインセンティブの制度化

(政策の意義)
・民主主義の基本 → 市民参加型社会の形成
・「超高齢社会」新たなフロンティアの開拓
→ グローバル社会の未来への啓示

解決方法として何かあるのか？税金(補助金)の投入？工場の誘致？村をたたく？
中山間地域が求めているものって何？
地域に響き渡る子供たちの声、町のあちこちで話に興じている女たちの笑い声、仕事から疲れて帰って来た時に温かく迎えてくれる家族の姿だと考えた。
そんな家族が寄り合う地域を作っていくため、宮地岳町の住民との意見交換や現地調査を通して一つの政策を提言する。

過疎・高齢化が進む典型的な中山間地域、天草市宮地岳町に着目。失われた行政サービスを住民が協働して補い、地域資源を活用した経済活動が営農組合主導のもと民主的に行われていることを踏まえ、住民によるソーシャルエンタープライズの設立を提案した



宮地岳町では、18軒の農家が民泊を受け入れている。このほか、米のブランド化やグリーンツーリズムなど、地域資源を有効に活用した取り組みが行われている



えていく政策は何かと考えたときに、ソーシャルエンタープライズを思いついたといいます。

ソーシャル エンタープライズって？

ソーシャルエンタープライズとは、近年イギリスなどで注目されている社会的課題を解決する新たな手法で、営利を目的としない民間の組織です。

- ① 社会的課題に取り組む公共性
- ② ビジネスとして資金を獲得する収益性

- ③ 地域住民などの参加型経営という民主性

の3点が挙げられ、地域の資源や文化などを土台に、ビジネスの手法を用いて課題を解決していく方法です。事業で得られた収益は、株主や構成員に配分する代わりに、事業に再投資したり地域に還元していきます。

宮地岳町は、民主的な組織である営農組合の活動が盛んで、特産の米で得られた収益の一部を、農家民泊の体制づくりやグリーンツーリズムによる都市との交流に再投資するなど、すでにソーシャルエンタープライズの原型を築いています。この機能を発展させる

ことで、さらなる地域の活性化につなげていきたいというのが同研究会の提案です。

世界の企業と手を結び 「WIN-WIN-WIN」の関係を！

「天草宝島研究会」が具体的な戦略として挙げたのが、「地域と多国籍企業との協働」です。グローバルに活躍する多国籍企業は、新たな市場を開拓するために、さまざまな地域の実情に応じたサービスや製品開発を行った経験を持っています。

一方で、日本の中山間地域は、活性化のための新たな手法や価値の創出を必要としています。

同研究会は、豊富な経験を持つ多国籍企業から人材の派遣を受け、中山間地域の住民と手を結ぶことは、地域のエンパワーメントにつながると考えました。

また、「日本に市場を求める多国籍企業にとっても、日本における社会貢献事業がもたらすイメージアップ効果は計り知れず、戦略上大きな価値があります」と語るのは、天草市の職員であり政創研に政策研究員として所属する、メンバーの長谷部俊之さん。さらに、ソーシャルエンタープライズに入

社し、社会貢献したいと考える意識の高い人材が確保できるという利点もあり、まさに3方向にメリットがある画期的な提案です。

「チーム全員でさまざまな可能性を模索し、ソーシャルエンタープライズを活用するという考えに至ったのは、政策コンペ企画書提出期限の10日前でした。話し合いが進まず苦しいときもありましたが、宮地岳町の方々もコンペを聞きに来られて、とても喜んでくださいました。今後も町の人にヒアリングを重ね、具体的な戦略にまで踏み込んでいきたいですね」と水室さんは語ります。

※SWOT分析とは
目標達成に向けて戦略を立てる上で、そのプロジェクトや組織の強み(Strength)、弱み(Weakness)、機会(Opportunity)、脅威(Threat)を分析すること



「天草宝島研究会」メンバーの水室さん(右)・大学院社会文化科学研究科の王ていさん(中央)・長谷部さん(左)。台湾からの留学生である王さんは「台湾ではグループ研究をしないので、共同で取り組む機会を得て、大変なめになった」と語る

「明日のくまもと」を考える公共政策コンペ②
チームRED (工学部社会環境工学科と大学院自然科学研究科学生の合同チーム)

新幹線で家庭円満計画 行ってらっしゃいからおかえりなさいまで

フィールドワークで見えた 課題と可能性

工学部社会環境工学科地域風土計画
研究室の有志で構成される「チーム
RED」は、今年3月の新幹線全線開
業を機に、熊本市新町・古町エリアを
中心としたまちおこしを提案しました。
「新幹線でまちおこし」というと、観
光に視点が行きがちですが、ビジネス
マンとそのファミリー層に着眼しまし



古町・新町界隈の路地を実際に歩いてフィールド調査を行った

た」と語るのは、チームリーダーで工
学部社会環境工学科4年生の畔津^{もと}伸彦
さん。
熊本駅にほど近い熊本市新町・古町
エリアは、かつては坪井川を利用した
物流が盛んで、城下町として栄えたエ
リアです。古い町屋や社寺が至るとこ
ろに点在していることから、歴史的資
産を生かした観光振興やまちづくりが、
地域住民の手によって活発に行われ
ています。

また熊本市の中心街にも近いこのエ
リアには、多くの若者やファミリー層
が住み、交通至便な居住地としての人
気も高まっています。こうした背景か
らマンションも多く、新しい建物と歴
史的町並みが混在する独自の景観を生
んでいます。

「町をモールにしよう！」

「今年3月に九州新幹線が全線開業
することを、好機ととらえたい」と語

新幹線で家庭円満計画
行ってらっしゃいから、おかえりなさいまで
チームRED

提案内容
OKEYAMACHI MALL
mushanyoca

新たな4つの魅力
1. まちの歴史に触れることができる
2. まちづくりとリンクできる
3. 夜売から確保まで幅広く扱う
4. ビジネスにも役立つ

レンタサイクル
感動で健康増進!
バスよりスムーズに観光する
場所を選ばず、乗り降り自由
城下町を走るなら自転車!
徒歩より早く、バスより遅く

将来像
2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 2023 2024 2025 2026 2027 2028 2029 2030 2031 2032 2033 2034 2035 2036 2037 2038 2039 2040 2041 2042

九州新幹線全線開業後、居住地としての熊本の役割を考え、熊本駅にほど近い古町・新町エリアに着目。古い町屋やマンション、路地、寺社など「今あるもの」を生かして「住んで楽しい町」にする、屋外モールの形成を提案した

Think!



かつてこの地区は、坪井川を利用した物流の要衝だった。
現在は、地域住民による町歩きガイドや人力車などの観光振興が活発に行われている

る「チームRED」。単に外部からの出入りが増えるだけでなく、熊本から福岡への通勤が可能になることから、副都心としての役割も付加されると考えました。そこで、家族が住んで楽しい町にしたいという思いで考えられた

振興策が、「古町の一部に屋外モールをつくらう」という提案です。

「OKKEYAMACHI MALL」と名付けられた一画は、普賢寺の回りに路地が発達し、町屋やマンションが取り囲むおよそ150メートル四方のエリア。

この普賢寺を囲む町屋やマンションの集会場、路地などを活用し、ファッションや飲食店、エントナーテインメントなど、さまざまな機能を持たせた屋外モールを形成しようという斬新なアイデアです。

「平日は居住エリアで過ごし、週末は郊外にあるショッピングモールへ行くという生活が定着していますが、居住地域の中にショッピングモールのような機能があれば、



それぞれが分担してつくり上げたアイデアの受賞を、みんなで喜んだ

便利で楽しい。古くからの住民と新しい住民との交流も生まれ、観光にもつながります」と畔津さん。

さらに、熊本駅と新町・古町、そして都心間を結ぶレンタサイクル事業を提案。通勤や観光などにレンタサイクルを利用することで、カードにポイントがたまるというシステムを考案しました。「お父さんがレンタサイクルを使って通勤することで、ポイントがどんどんたまります。たまったポイントは、お母さんがモールの夕食の材料をゲットする際に使えます。健康にも、お財布にも、環境にも優しい家庭円満システムです」。



「路地の多い町並みだからこそ面白いエリアになる可能性が高いんです」と語る、畔津さん(左)と岩田さん(右)

「人を呼ぶ」のではなく「あるものを生かす」という発想

このような考え方にたどりつくまでは苦労の連続だったと語る、大学院自然科学研究科の岩田圭祐さん。「最初は、観光支援で何かできることはないかと話し合ったのですが、観光という視点でとらえると、マンションなどはマイナス要因となってしまう。今あるものを生かし、ここで暮らすことが楽しくなるような提案にしたいと思いました」。

発想の転換こそが、今回の公共政策コンペの一番の学びだったと語る畔津さんと岩田さん。「まちおこしという点、どうやって人を呼ぼうかということに頭がいぎがちですが、今あるものを生かし、利用していく方法を考えると、おのずと道は見えてくるという大切なことを学びました」。

研究室探訪

Laboratory Exploration



河野研究室

教育学部

国語教育科

大学院教育学研究科

教科教育実践専攻

教育現場における実践と学習理論の統合を目指し、研究を続けている河野研究室。未来を担う教育者の卵たちが、国語科教育を軸に、地域の小・中学校の授業や研究会などに積極的に参加し、日々研さんを積んでいます。

「もともと、熊本は教育に大変熱心な地域で、昭和20年代には、戦後の新教育運動の中で『限府プラン』という経験主義的カリキュラムのモデルも作られています。こうした脈々と受け継がれてきた熊本ならではの教育研究を土台にしながら、国語科教育における実践と理論の統合を実現することが目標の一つです」と、河野順子教授は語ります。

日本国語教育学会熊本支部の研究会は、学生たちにとって大きな学びの場です。先輩の実践成果に耳を傾け、最新の研究講演から学び、自らもまた研究成果を発表する貴重な機会となっています。「現場の先生方から学ばせてもらう姿勢が大切」という河野教授。学生たちの視線は真剣そのものです。研究会では大学OB・OGとの新たなきずなも生まれています。

「先輩の話を通じて直接聞く機会を得たことで、彼らの発表に実践と理論の統合が見られるようになりました」と河野教授。

3月5日には、熊本大学教育学部と熊本県教育委員会後援、熊本市教育委員会共催の附属学校園と連携した第1回研究発表会の開催が予定されており、リーダーとして準備に追われる日が始まります。

教育には長い年月をかけて積み上げてきた普遍の理論と、時代の流れに沿って変えていくべき理論があり、まさに不易流行の指導理論が必要です。月例会が開かれる「国語教育湧水の会」も70回以上を数え、ベテランの先生から学生まで集まって、活発な意見交換が行われています。

「熊本の、日本の、ひいては世界の教育現場を担う人材に育ってもらうことが、目標です。学生たちを現場へ送り出すだけでなく、実践と理論の統合に向けた現場との連携にも取り組んでいきます」と河野教授。今日も学生たちの研究は続きます。

時代が移り変わり、
教育の現場も変わりつつあります。
現代的な教育課題に対して、
学習理論をきちんと学び、実践する力を持つ
教員が求められています。
今回は、教育現場との学び合いで、
実践と理論の統合を図る研究を進める
河野研究室を訪ねました。



↑ 12月2日に熊本大学附属小学校で行われた文部科学省委嘱論理科運営指導委員会の様子

← 同附属小・中学校の授業に参加。学生たちは、子どもたちと向き合い、教育現場を肌で感じていた

↓ 同附属小学校で行われた第18回日本国語教育学会熊本支部研究会「これからの国語科教育」では、学生たちが授業アイデアを提案。ベテランの先生や学生たちを前に、研究成果を発表し、活発な意見交換が行われた





教育現場の声を知り、学び合う 実践と理論の統合を目指す



研究室には室長の河野順子教授をはじめ、大学院生2名、教育学部4年生13名計15名が所属している



「特集Ⅱ」 キャンパスへようこそ！

科学の不思議と楽しさを伝えたい

地域に開かれた大学を目指す熊本大学。

大学の研究を地域の方々に知ってもらい、科学の楽しさを伝えたいという思いから

毎年秋に黒髪南キャンパス（理学部、工学部、自然科学研究科）を

子どもたちに開放する、「夢科学探検」を実施しています。

小さな子どもから大人まで楽しめるさまざまな実験を通して

科学の不思議さや感動を伝える取り組みについて、

実行委員の大学院自然科学研究科の

藤本 斉教授に話を聞きました。



大人から子どもまで 科学の楽しさを体感！

「夢科学探検」は、理学部、工学部、大学院自然科学研究科が中心となり実施しています。小学生から一般市民までの参加者に、さまざまな実験を通じ、科学への理解と興味を持ってもらうのが狙い。毎年、学園祭（熊粹祭）の日に合わせて行われ、18回目を迎える今年度は10月30日（土）に開催されました。

「自分だけのロケットを作ろう！」「アンモナイトのレプリカづくり」「必見！スライムのお昼ごはん」など、タイトルと内容に趣向を凝らした100以上のテーマを、それぞれの研究室や公認サークルが実施。約2000人の参加者がキャンパスを訪れ、大学の研究や科学の楽しさを体感しました。学生たちのサポートを受け、実験に取り組む子どもたちの表情は真剣そのもの。



子どもたちを驚かせ楽しませることが、科学への疑問や興味へとつながる

水を加えてこねて・・・実験には子どもが遊ぶ要素がいっぱい

いろんなサイエンスに 触れてほしい

取り組みの始まりは、平成5年にさかのぼります。

当時は工学部・物質生命化学科と、理学部・物質化学科が主導で行うイベントでしたが、平成12年度からは広く「科学」に触れてほしいとの思いから「夢化学」を「夢科学」へと変更し、現在に至っています。平成19年度からは、学園祭の期間中に、学生がものづくりに挑むコンテスト「もの・クリコHALLENGE」などとともに開催されています。

遊びとサイエンスの両立

「『夢科学探検』は、10時から16時の間だったら、いつ来てもどこから見ても楽しめる、地域に開かれた無料のイベントです。年齢を問わず楽しめる内容にするために、それぞれの研究室が毎年知恵を出し合っています」と藤本教授。「テーマを決める上で大切なのは、子どもが楽しむだけでなく、大人が見ても新しい発見があるようなものでなければなりません。一つの実験を通じて、子どもたちは目を輝かせ、大人は科学の奥深さを感じられるよう

な、遊びとサイエンスが両立した企画を導き出すのに、学生たちは苦労しています。準備には時間も労力もかかりますが、貴重な学びの場となっています」。

今年度も850人以上の学生がボランティアで携わりました。研究内容を分かりやすく説明したり、子どもたちと触れ合う体験は、学生たちが社会性を身に付ける上でも貴重なチャンスだといえます。「理学部では、将来教員になる学生も多く、このイベントは大学の演習や研究では得られない経験ができる、大切な場です。また、自分たちが苦労してつくり上げた実験に、子どもたちが目をキラキラ輝かせて取り組んでいる姿を見ると、自信にもつながります」。

「夢科学探検」が始まった当初は、実験テーマは30程度で、参加者は100人余りの小さなイベントでしたが、今ではリピーターも多く、家族で楽しめるイベントとして親しまれています。「これからも、子どもたちに驚きと感動を与え続け、開かれた大学として地域住民との交流の場を提供していきたいですね」と藤本教授は話していました。



先生に引率されて、中学生も大勢参加。
模擬授業のようで学生にとっても良い刺激に



イベント当日のキャンパスは、
一年のうちで最もにぎやかな日。
教室は人で溢れかえる



磁石にくっつく砂鉄入りのスライムを
一緒に手づくり



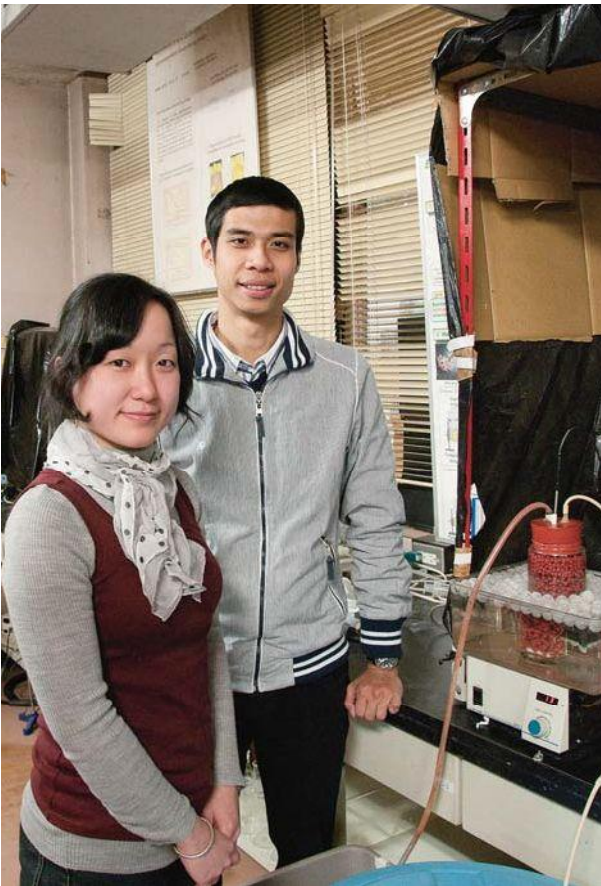
インタビュー

大学院自然科学研究科

ライ・ミン・クアンさん ド・フォン・カーンさん

熊大で学んだ技術を生かし ベトナムの水環境を救いたい！

大学院自然科学研究科複合新領域科学専攻（古川憲治研究室）のライ・ミン・クアンさん（28歳）とド・フォン・カーンさん（27歳）の目標は、母国ベトナムで水環境の改善に取り組むこと。名水の里・熊本で夢の実現に向け、高度汚水処理技術の先駆的な研究に打ち込んでいます。



ド・フォン・カーンさん（左）とライ・ミン・クアンさん（右）が研究を進めている、アナモックス菌の実験装置

先進的な研究を行う

熊本大学で学びたい

ライ・ミン・クアンさんとド・フォン・カーンさんは、古川研究室の博士課程3年生と2年生。古川研究室は、12年前に発見された微生物アナモックス菌を使った汚水処理技術を研究し、国内外で高い評価を受けています。クアンさんとカーンさんは、それぞれ熊本大学と学術交流のある「ハノイ建設大学」と「ベトナム国立大学ハノイ校ハノイ科学大学」で古川教授の研究を知り、熊本大学で学ぶことを決意しました。

悪化するベトナムの水環境

「ベトナムの首都・ハノイには、下水処理施設がありません。汚水はそのまま川に廃棄され、そのことが環境汚染につながっています」とカーンさん。急速な経済成長が進むベトナムでは、高速道路や鉄道などのインフラが整備される一方で、大気、水質汚染などの環境問題が深



ハノイ市街地の湖。汚泥やごみが堆積して、湖底は全く見えない。このように汚れていても釣りをする人がいるという



刻化しています。生活、工場、そして畜産業などによる排水や、埋め立てられた生ごみから出る浸出水。その中に大量に含まれる窒素は、一般的な汚水処理技術で効率的に取り除くのが困難で、海や河川に流れ込むと、富栄養化を引き起こし、魚介類が死ぬなどの被害をもたらします。さらに、飲料水を地下水でまかなうハノイでは、汚水中の窒素が土壌に深く浸透することで、飲料水にも深刻な影

International exchange Report

国際交流レポート／平成22年9月～22年11月

9月3日 / テキサス大学サンアントニオ校と大学間学術交流協定を締結

谷口学長および両角工学部長がテキサス大学サンアントニオ校を訪問し、交流協定の締結に係る調印式を行いました。



14日 / The 6th KU-KITECH International Symposiumを開催(15日まで)

本学工学部百周年記念館において開催された同シンポジウムには国内外から約70名が参加し、英語による研究成果発表が行われました。

23日 / アルバータ大学(カナダ)での海外FD研修の実施(～10月6日)

本学から教員4名が参加しました。

10月3日 / 日本留学フェア(インドネシア)に参加

4日 / 短期留学コース開会式

11日 / 韓国科学技術院(KAIST)主催の2010国際学長フォーラムに出席

本学からは谷口学長が出席し、「Role and Strategies of Kumamoto University (KU) as a Research University in S&T Dominated Era in the field of Green Science and Technology」というテーマで発表しました。



13日 / 谷口学長が第6回環黄海産学連携学長(総長)フォーラム(福岡県・北九州市)に出席(～14日)

15日 / 古川副学長が北京工業大学創立50周年記念式典・国際学長フォーラムに出席(～16日)



16日 / 日本留学フェア(中国)に参加(～17日 北京、23、24日 上海)

29日 / みなまた環境塾国際ワークショップを開催(～30日)

みなまた環境マイスター養成プログラムの一環として、東南アジアより7名の外国人研究者を招き、本学および水俣市内においてワークショップを開催しました。2日間で延べ100名が参加しました。



11月1日 / 本学教育学部と南榮技術学院(台湾)との部局間交流協定を更新

本学の教育学部長らが南榮技術学院を訪問し、交流協定の更新に係る調印式を行いました。



8日 / 安部理事がスラバヤ工科大学(インドネシア)国際学長フォーラムに出席(～10日)

11日 / 朝鮮大学校訪問団が来学

朝鮮大学校(韓国)から15名の学生訪問団が来学し、本学学生及び教職員との交流会を実施しました。

16日 / 第5回環黄海マグネシウム合金シンポジウム(台湾)を開催(18日まで)

本学より教員・学生ら22名が参加し、英語による研究発表を行いました。

18日 / 文化財・工学・環境材料を対象としたX線CTの応用に関する第1回国際ワークショップを開催

本学の尾原教授がプロジェクトリーダーを務める拠点形成研究グループ・X-Earthセンターが、文化財・工学・環境材料を対象としたX線CTの応用に関する第1回国際ワークショップを、工学部百周年記念館にて、開催しました。国内外から107名が参加し(海外からはフランス、ベルギー、カナダ、チェコなど7カ国が参加)、X線CT技術に関する世界最先端の情報交流が行われました。



20日 / 日本留学フェア(ベトナム)に参加(～21日)

[国際戦略ユニット]

母国で自らの研究をアピール!

昨年12月4、5日に熊本大学がハノイで開催した学術交流イベント「第8回熊本大学フォーラム」では、本学から学生26人が参加。排水処理や放射線診療教育などの6テーマを英語でプレゼンテー

響を及ぼします。そこで2人が注目したのが、アナモックスという窒素除去方法です。「微生物の力を活用し、安価に、そして安全に窒素循環を促すアナモックスは、ベトナムの水環境に救世主的な役割をもたらすでしょう」とクアンさん。

響を及ぼします。

ションしました。

クアンさんも自らの研究テーマであるアナモックスを使った汚水処理技術について口頭発表。「母国であるベトナムの研究者や学生たちの前で、画期的な汚水処理技術を発表できてうれしい」と笑顔で語ります。また、ポスターによる展示発表を行ったカーンさんは「研究内容についてたくさん質問を受け、環境問題への意識の高まりを感じた」といいます。古川教授は「熊本大学が培った技術が、ベトナムの環境浄化に役立つことをアピールできました。さらにベトナムの優秀な学生たちが、熊本大学に興味を持つきっかけになればいいですね」と本学とベトナムの交流の深まりに期待します。「将来は、水質管理工学という学問分野



大気汚染で街全体が白くかすんで見える、ハノイ市街地。[環境問題が深刻化するベトナムにとって、2人の研究は重要な役割を果たすでしょう]と古川教授

野を立ち上げ、大学で研究と教育を行っていきたい」と語るクアンさん。カーンさんは「水環境保全について教鞭(ベーン)を執りながら、環境ビジネスにも携わっていきたい」と夢を語ります。今年5月に、古川教授が中心となり本学で開催される「第1回国際アナモックスシンポジウム」を控え、準備や研究にも熱が入る日々です。「毎日が学びの連続ですが、先生方や仲間を支えられて、楽しく頑張っています」と声をそろえています。

卒業生ジャーナル

Graduates' Journal

本学の卒業生たちの“今”に迫る「卒業生ジャーナル」。
熊本県内はもとより、国内外で活躍する先輩たちの
これまでの歩みや苦勞、そして喜び、楽しみなどを通して
精勵するその姿をご紹介します。



手塚 菜摘 Natsumi TEZUKA



キリンビール株式会社 中四国統括本部 松山支社（愛媛）勤務
文学部文学科欧米言語文学コース・平成20年度卒

わたしが欧米言語文学のコースを選んだのは、「卒業旅行で海外へ行きたい」という気持ちから。単純な動機かもしれませんが、授業では文学に限らず、欧米の文化をたくさん学ぶことができました。先生も、興味を持ったこと、疑問を持ったことは積極的に学びなさいと強く後押ししていただき、「ドイツのビール文化」というテーマで卒論を書いた際には、たくさん協力していただきました。好きなことを追求した楽しさは今でも記憶に残っています。

学生時代を通して「お酒」に興味を持ち、今はそれに関わる会社で営業をしています。物事を突き詰めたいという意欲を、後輩の皆さんにも常に持ってほしいです。



内山 彩 Aya UCHIYAMA



熊本市立西原中学校 勤務
教育学部中学校教員養成課程技術専攻・平成19年度卒／大学院教育学研究科教科教育専攻・平成21年度修了

大学2年生頃までは、教師を目指すことを迷う日々でした。しかし、教育実習での子どもたちとの関わりによって、教師になろうと決意しました。それは、楽しかった思い出からだけでなく、子どもたちに自分の思いが伝わらなかった悔しさからでもあります。また、教師という職業について仲間と深く考えられたことも、本気で目指すきっかけとなりました。教育に関わっていると、つらさや苦勞を感じる瞬間は多々あります。しかしそのような環境の中で、子どもたちの好きなこと、得意なこと、良い面を一緒に見つけ、共に将来について考えられるように、日々学んでいきたいと思っています。



出口 まどか Madoka DEGUCHI



国立大学法人熊本大学 人文社会科学系事務ユニット 勤務
法学部公共政策学科・平成17年度卒

熊本大学の法学部・法曹養成研究科教務担当として働き始め、2年目になります。仕事は、授業や試験、進級や卒業、入試、留学に関することなど多岐に渡ります。不慣れなことや予想外のことも多く、悪戦苦闘の連続ですが、職場の方々や先生方、ときには学生さんに助けられ、忙しくも充実した日々を過ごしています。学生時代は自由に使える時間がぜいたくなほどにあり、無限の可能性があります。また、多感で考え方が柔軟、記憶力も鈍っておらず、体力もあり、吸収力も抜群な時期です。学生の皆さんにはこの貴重な期間を大切に過ごしていただきたく、教務担当としてお役に立つことができれば大変うれしく思います。



清水 麻衣子 Maiko SHIMIZU



医療法人社団高野会 高野病院（熊本）勤務
理学部理学科数理科学プログラム専攻・平成21年度卒

わたしは現在、ドクターや医療従事者の方々のための医療情報利用のサポートや、がん患者の診療情報の管理などの業務を行っています。ドクターの学会発表・論文発表のための資料作成補助などは難しく時間がかかりますが、何度も打ち合わせてより良いものを作っていく仕事は、とてもやりがいがあり、達成感も味わえます。社会人になったばかりで、まだまだ覚えることが多く忙しい日々を送っていますが、職場の同僚をはじめとするスタッフや学生時代に会った仲間の存在が、わたしの心の支えになっています。皆さんも、たくさん学びたくさん遊びながら人との出会いを大切に、学生生活を送ってください。



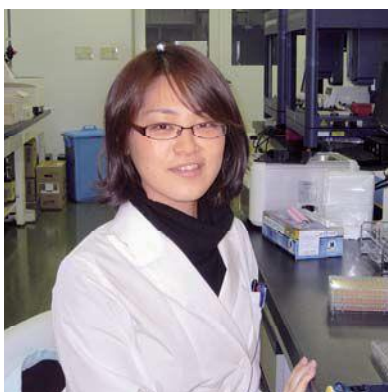
フェイスムチェムワ・チクワンナ Faith Muchemwa-Chikwanha



ジンバブエ大学医学部 免疫学講座（ジンバブエ・ハラレ）勤務
大学院医学教育部博士課程臨床医科学専攻・平成19年度修了

平成15年4月に文部科学省国費留学生として主人と6歳の長男と共に熊本に来ました。大学院で皮膚病態治療再建学分野を修了した後、同分野で博士研究員として2年間勤務し、平成22年3月に母国ジンバブエへ帰国しました。熊本で過ごした7年の間には2人目の子どもが生まれ、熊本の人々や日本の文化・伝統の素晴らしさに触れることができました。

現在は大学で教育・研究を行うとともに、わたしが大好きな桜の花から名付けた「Sakura Medical Center」という診療所を開設して、臨床医としても働いています。日本での経験をジンバブエの人たちに伝えるためにも毎日頑張っています。



原田 聡子 Satoko HARADA



（株）三和化学研究所 探索研究所 ADME/TOXグループ（三重）勤務
薬学部薬科学科・平成17年度卒／大学院薬学教育部分子機能薬学専攻・平成19年度修了

病院薬剤師を目指して薬学部に入りましたが、研究に魅力を感じ製薬メーカーに就職。現在は、新しく合成された化合物の薬としての適性を、物性・体内動態・毒性の面から評価し、より良い化合物にするための研究をしています。創薬初期の化合物は問題だらけで、それをいかに解決するか悪戦苦闘する毎日です。仕事では、知識・理解力・考える力・伝える力など自分に足りない物がたくさんあり、落ち込むことも多々あります。そんなとき、学生時代に苦勞してでも何かをやり遂げた経験は、大きな糧になると思います。学生時代はいろいろなことに挑戦できるときなので、やりたいことを精一杯頑張ってください。



平川 麻里子 Mariko HIRAKAWA



株式会社水野建設コンサルタント（熊本）勤務
工学部環境システム工学科土木環境系専攻・平成18年度卒

現在、道路や河川などのインフラ整備を主として、防災、環境保全といった、人々が安全で快適な生活を送るために欠かせないさまざまな事業に携わっています。建設業という仕事は役所や地元の方だけでなく、大学とも深いつながりのある仕事です。社会人として関わる大学は、学生時代から一段階進んだ視点で、学びながら共に協力することのできる場であると感じます。プライベートで支え合う友人はもちろんのこと、仕事においても、卒業してもなお関わり合っていけるような人間関係は、大学で得た大きな財産です。みなさんも、縁あって出会った人々とのつながりを大切に、豊かな人間関係を築いてください。

熊薬創立125周年記念事業 知の創造、薬学の未来を切り拓く新たな一歩を



世界へ羽ばたく、我らが“熊薬” 熱い思いを伝え、次世代へつなぐ



(上) 建学記念碑除幕式であいさつする高濱学部長
(中) 私立熊本薬学校設立趣意書の文言が刻まれた建学記念碑
(下) 谷口学長から「熊本大学名誉フェロー」称号が授与される甲斐原氏

1885年に私立熊本薬学校として創設された熊本大学薬学部の創立125周年記念事業が、平成22年10月30日・31日の2日間にわたって開かれました。

薬学部キャンパスで行われた「熊薬創立125周年記念事業」第1部では、「熊薬研究助成会受賞者による熊薬若手シンポジウム」と宮本記念館前に建立された「建学記念碑」の除幕式。第2部では、「熊薬創立125周年記念講演会およびシンポジウム」を開催。

「建学記念碑」の除幕式では谷口功学長をはじめ、高濱和夫薬学部長、熊薬同窓会会長・田代昭氏、卒業生代表・中武成信氏、学生代表・藤田一成さんが除幕を行い、多くの人々の拍手に包まれました。

また、第2部「熊薬創立125周年記念講演会およびシンポジウム」の特別講演は、本学OBでもある熊本保健科学大学の赤池紀生教授による「サイエンスの発展と技術一人一人へのメッセージを込めて」。自身の留学経験からパッチクランプ法(※)の開発に至るまで、若者たちに語りかけるように講演。メモを取る学生たちの姿も多く見られました。

当日は、「熊薬創立125周年記念大薬学展」と題し、薬草園を一般公開しました。“熊薬”の創始にあたる肥後藩主・細川重賢が開設した薬園「蕃滋園(ばんじえん)」の流れをくむ

伝統ある薬草園を、多くの市民が楽しみました。

31日には、熊本ホテルキャッスルで記念式典と祝賀会。記念式典では、日本薬学会会頭・松木則夫氏、日本薬剤師会会長・児玉孝氏などの来賓、卒業生や学生ら約400名が出席して盛大にとり行われました。

また、優秀な学生の育成に役立ててほしいと10年間で総額3,600万円を熊本大学基金に寄附された甲斐原守夫氏に「熊本大学名誉フェロー」称号を授与。「熊薬創立125周年記念甲斐原守夫奨学金」として23年度から交付される予定です。

祝賀会では、熊本県、熊本市をはじめ、東京大学薬学部長・長野哲雄氏が祝辞を述べ、本学名誉教授・一番ヶ瀬尚氏の音頭で乾杯、懇談しました。

※微細電極を顕微鏡下で細胞などに貼り付け、電気的性質を調べることにより、細胞レベルでの生体試料の研究に多用される手法



世代を超え、親交を深めあう機会にもなった祝賀会



記念事業の一環として発刊された「熊薬ものがたり」。熊薬の歴史などが分かりやすく紹介されている



薬草園の美しい草花を紹介するポストカードも制作

美術科の学生が地域貢献



芸術で街を元気に！

教育学部美術科の緒方信行准教授と25名の学生が、商店街や企業などによって組織されている「すぎたい熊本協議会」の依頼により、迫力満点の風神雷神の彫刻モニュメントを制作。九州新幹線全線開業を控えた熊本を芸術で盛り上げようと、平成22年10月に開催された「城下町くまもと銀杏祭」で披露されました。



俵屋宗達の「国宝・風神雷神図屏風」を参考にして、発泡スチロールを材料に造った、高さ2m以上、重さ約80kgのモニュメントです。制作に要した時間は1カ月半。彫刻教室を中心に美術科の1年生から大学院2年生までの学生が、夏休みを利用して制作しました。モニュメントは、珍しい座像の風神雷神。力強さを感じさせる一方で、ひょうきんな表情が印象的です。風神が持つ風袋の中には、「新幹線さくら」が潜んでいるという、ユニークなアイデアも。

発泡スチロールを材料にするのは、緒方准教授も初めてのことで、学生と共に試行錯誤を繰り返しながら、制作を進めました。普段の講義では、これほど大きなものや、学年を越えて作品制作をすることはありません。今回のモニュメント制作は、学生たちにとって、大切な経験の一つとなりました。現在は、また新たな作品制作が進んでおり、3月のお披露目が予定されています。



地域の宝を見つめ直す

菊池市四町分にある菅原神社の絵馬修復に、教育学部美術科の松永拓己准教授と8名の学生が取り組みました。菅原神社で平成22年10月に開催された、50年に一度の「遷宮祭」に合わせ絵馬を修復したいと、産業文化会館の壁画制作の実績がある松永准教授のもとに依頼があり、修復が実現。

古いもので120年も前に奉納されたという絵馬は、計8枚。大きいもので縦1.5m、横3mの大きさがあります。長い年月を過ごした絵馬は、もともと何が描いてあったのかさえもわからないほど傷んでいました。まずは、わずかに残っていた点と点を結んで、消えていた絵をよみがえらせることから作業を開始。次第に

絵がよみがえり、源平の戦いや日露戦争の情景が描かれた絵馬だということが分かってきました。また、地元の小学生や住民の方々と共に行ったことで、学生と地域の方々との交流も生まれました。

修復にかけた時間は、夏休み期間中の5日間。1日に10時間も作業に没頭することもありました。よみがえった絵馬は、菅原神社へ再び奉納され、地域の宝としてまた次の世代へと受け継がれていきます。



これらの学生の取り組みはWeb (<http://www.kumamoto-u.ac.jp/>) でもご紹介しています。

女優 宮崎美子さんが来学!



本学の卒業生で女優の宮崎美子さんが、BS朝日「にほん風景遺産 地上の楽園(パライズ)天草宝島〜五足の靴を辿って〜」のロケのため出演者の加藤千洋さんと黒髪キャンパスを訪れました。主なロケは天草を舞台に行われましたが、宮崎さんが本学卒業生ということもあり、五高記念館前や漱石像前などで撮影が行われました。

撮影前には、本学広報・同窓会担当の田口宏昭理事が宮崎さんに挨拶。宮崎さんの在学中の思い出話などに花を咲かせました。

また、撮影後は五高記念館内の各展示室も見学。「当時(在学中)は中に入れなかったけれど、こんなすてきな建物だったんですね」と話されていました。

このテレビ番組は、熊本朝日放送(KAB)でも放送されました。



ルース駐日米国大使夫妻を迎え、学生座談会および男女共同参画推進講演会を開催



平成22年10月18日、本学にルース駐日米国大使夫妻を迎え、学生座談会および男女共同参画推進講演会を開催しました。

学生座談会でルース大使は、出席した20名の学生からのさまざまな質問に笑顔で答えるとともに、良好な日米関係を保つことや、海外に出て見聞を広めることなどの重要性を強調しました。

続いて、ルース大使夫人で弁護士でもあるスーザン・H・ルース氏を講師に迎え、男女共同参画推進講演会が開催されました。「働く女性」と題

し、アメリカ社会におけるワーク・ライフ・バランスについて語られたほか、女性が働き続けるための政府による制度作りと、さまざまな問題の解決に向けて女性自身が動くことの重要性も強調。また、「女性が働きやすい環境の整備は、それ自体が正しいことであるというのはもちろんだが、この達成により、少子高齢化や経済問題などを抱える社会を発展に導くことができる」と述べました。



もの・クリ CHALLENGE 2010



開催10回目を迎えた「もの・クリ CHALLENGE」は、身近なものづくりの課題について、構想力や表現力など“自由な発想”を競う学内コンテストです。今年度は、製作部門「私の快適アイテム」、アイデア部門「キャンパスサイン」がテーマ。平成22年10月20日には、最終審査に残った11組の作品を工学部に展示し、一般見学者の投票と審査員による選考が行われました。

審査と投票の結果、機械システム4年江藤利宏さんの「あしをつかいマウス」が最優秀賞に選ばれ、図書カード10万円分が贈られました。



秋の夕暮れコンサート



平成22年11月12日、工学部赤レンガ資料館で「秋の夕暮れコンサート」を開催しました。

工学部研究資料館は、旧熊本工業高等専門学校機械実験工場。コンサートは、同19年に日本機械学会から工学部資料館と機械群が「機械遺産」に認定されたことを記念して、普段開放されていないこの資料館を一般にも知ってもらおうと開催したのが始まりです。館内には当時の機械が展示されていますが、その明治のレンガ造建築はロマネスクの教会のようで天井が高く、音響が

とても良く小コンサートに非常に適しています。

コンサートでは、バイオリンやピアノの演奏、ソプラノの独唱などが披露されました。また、本学卒業生で、同18年の日本マンドリン独奏コンクール2位の福屋篤さんも美しい音色を響かせました。



「火傷しない安全、安心な石灰乾燥剤」で、松本教授が九州経済産業局長賞を受賞



平成22年11月30日、ホテル熊本テルサ(熊本市)で、同22年度の九州地方発明表彰式が行われ、大学院自然科学研究科松本泰道教授と、有限会社坂本石灰工業所(玉名市)の共同発明「火傷しない安全、安心な石灰乾燥剤(特許第4051399号)」が九州経済産業局長賞の表彰を受けました。この発明は、食品の梱包袋などに入っている石灰乾燥剤が水と反応して熱を発生し事故を起こす危険があ

るため、乾燥剤と同等の性能を保ったまま、水との反応を遅くコントロールすることで、急激な発熱が起こらないようにしたものです。

また、本学の谷口学長が、発明を生み出した研究機関などの代表者に贈られる実施功績賞を受賞しました。

この表彰式は、社団法人発明協会が毎年開催しているもので、文部科学省や特許庁、日本弁理士会などが後援しています。



数字でわかる 熊本大学 #03

学生を経済面で支援する「入学科・授業料免除制度」

学びの門戸を開く

免除総額 年間約3億2千万円! 国立大学の経済支援

国立大学の入学科・授業料免除制度をご存知ですか? 文部科学省が定めたこの制度は、学生の成績や経済的理由などによって、入学科や授業料を全額または半額免除するというものです。また、家計を支える家族が風水害などの災害を受け、授業料の納入が困難である場合にも免除認定の対象となります。

授業料免除の申請と審査は、前期・後期の2度に分けて行っています。平成21年度は、学部生・院生合わせて延べ2,614名が授業料免除の申請を行い、そのうち285名が半期分の授業料の全額免除(前期・後期それぞれ267,900円)、1,729名が半額免除となり、申請者の約77%の方を支援することができました。このほか、入学科の免除、別科・専攻科の授業料免除も合わせると、その総額は約3億2千万円にもなります。

本学では毎年2回の授業料免除のガイダンスを行い、この制度の周知を図っています。また、新入生を対象に、申請の案内も行っています。入学科・授業料の免除制度については、「熊本大学 授業料免除」で検索、または学生支援部学生ユニット 経済支援担当(電話:096-342-2126)へお問い合わせください。

平成21年度 入学科・授業料の免除人数と免除額

区分	入学科(円)	申請者(人)	全額免除(人)	半額免除(人)	免除額合計(円)	
学部	282,000	5	2	0	564,000	
大学院	282,000	187	0	69	9,729,000	
区分	授業料(円)	申請者(人)	全額免除(人)	半額免除(人)	免除額合計(円)	
学部	前期	267,900	857	146	470	102,069,900
	後期	267,900	930	61	659	104,614,950
大学院	前期	267,900	420	64	267	53,446,650
	後期	267,900	407	14	333	49,093,575
別科・専攻科	前期	136,950	7	0	4	273,900
	後期	136,950	3	0	2	136,950

※大学院には、法曹養成研究科(授業料年額:804,000円)を含む

みなまた環境マイスター養成プログラム

みなまた環境塾 第12回イブニングセミナー

愛知県豊橋技術科学大学にて博士課程を修了され、機能性セラミックスと多孔質材の研究をされている、マレーシア科学大学マテリアル鉱物資源工学のイエオ・フェイ・イー博士にお話しいただきます。

日時／1月28日(金)18:00
場所／みなまた環境テクノセンター
演題／「マレーシアのリサイクル、環境およびエネルギー材料」イエオ・フェイ・イー(マレーシア科学大学マテリアル鉱物資源工学教授)
対象／一般、学生、教職員
※要事前申込(当日申込可)・入場無料

【申込・問い合わせ】

自然科学系事務部みなまた環境塾担当 前田 Tel. 096-342-3519
URL <http://ecomot.org/>

みなまた環境塾 第6回シンポジウム

環境系の専門家を招いてシンポジウムを開催します。

日時／2月12日(土)14:00
場所／水俣市総合もやい直しセンター
演題／「宇宙空間への人体の適応(仮)」大平 充宣(大阪大学大学院医学系研究科教授)
「スペースデブリ:宇宙ゴミのはなし(仮)」福井 啓二((財)日本宇宙フォーラム 宇宙利用事業部長)
対象／一般、学生、教職員
※要事前申込(当日申込可)・入場無料

知のフロンティア

本学で行われている多彩な研究を分かりやすく紹介する「知のフロンティア」。第3回は、環境都市・くまもとの豊かな自然と太陽の恵みを生かした、未来のエネルギーのあり方について考えます。

「くまもとのクリーンエネルギーを考えるー太陽電池とバイオ電池ー」

日時／1月23日(日)
開場13:00・講演13:30~15:30
場所／工学部百周年記念館
講師／熊本大学長 谷口 功
※事前申込不要・入場無料



【問い合わせ】

政策創造研究教育センター
Tel.096-342-2044 Fax.096-342-2042
E-mail: seisoken@gpo.kumamoto-u.ac.jp
URL <http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp/>

平成22年度 熊本大学総合技術研究会

技術力向上と連携を目的として、研究成果発表・討論を行います。また、「太陽光発電システムの現在と未来」と題した講演(一般公開)も企画しています。一般の方々の多数のご参加をお待ちしています。

日時／3月17日(木)・18日(金)
場所／黒髪南キャンパス
黒髪北キャンパス
対象／大学・高専などの職員、自治体、企業等の技術者
申込方法／下記Webよりお申し込みください
※要事前申込・参加費2,000円
※特別講演のみ一般参加可、特別講演のみの参加は参加費・事前申込不要

【問い合わせ】

総合技術研究会実行委員会事務局 上村
Tel&Fax.096-342-3879
E-mail: kumamoto2011@tech.eng.kumamoto-u.ac.jp
URL <http://www.tech.eng.kumamoto-u.ac.jp/kumamoto2011/>

平成23年度受講生募集を3月上旬より開始します

公開講座

熊本大学の教員が「市民の生涯学習」のために企画した講座です。キャリアアップのための専門講座から生活の質を上げる教養講座、趣味の講座に至るまでバラエティー豊かな講座を用意。

場所／熊本大学各学部等
開講時期／4月から順次開講
対象／一般社会人、学生など
募集期間／平成23年3月～

平成23年度受講生募集パンフレットは3月上旬より配布予定です。お電話、FAXまたは電子メール(お名前・郵便番号・ご住所・電話番号・「熊大通信を見て」と明記)で下記問い合わせ先へご請求ください。公開講座と授業開放の最新情報は、下記Webでご覧いただけます。

【問い合わせ】

マーケティング推進部地域連携ユニット Tel.096-342-3121 Fax.096-342-3239
URL <http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp/>

授業開放(前学期)

熊本大学の授業を学生と一緒に受講してみませんか。人文社会科学、自然科学、生命科学など多彩な分野の科目を開放。教養を深める学習や専門的な学習もできます。

場所／熊本大学各学部等
開講時期／4月～9月
対象／一般社会人(高等学校卒業程度以上の学力を有する者)
募集期間／平成23年3月初旬～中旬

📖 附属図書館の利用について

附属図書館は、熊大生以外の方もご利用いただけます。夜間や休日も開館しており、中央館所蔵資料については貸し出しも行っていきます。専門書や入手の難しい図書、雑誌など、見たかった資料があるかもしれません。

利用条件・サービスについて、下記までお問い合わせください。

【問い合わせ】

附属図書館 閲覧担当 Tel.096-342-2226
URL <http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/>

【中央館】

開館時間(通常期)／平日8:40~22:00 土・日曜・祝日12:00~18:00
※利用は原則として大学生以上の方となります。
※入館の際は、図書館カウンターで受け付けをお願いします。
※住居か職場が熊本県内の方で、図書の貸し出しを希望される方に図書館利用証を発行しています。申請には、①身分を証明するもの(運転免許証など)②本人宛に届いた郵便物(住所が記載されているもの)が必要です。



熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます

No.11(平成22年9月1日～11月30日)

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様からご寄附をいただき、平成22年11月30日現在、その寄附総額は約4億1,640万円となっております。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成22年9月1日から11月30日までの間に入金を確認させていただきました個人131名、2法人・団体等の寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前がもれている場合は、誠に恐縮ではございますが、募金推進室(電話:096-342-2029)までご連絡ください。

なお、第1期の募集目標額を10億円としております。皆様のさらなるご支援とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

1. お名前・寄附金額の掲載を希望された寄附者

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※()内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

【5万円】	岩瀬 弘敬(6)	岡村 紘生	江南 尚一	田代 有美	津田 昌彦	本田 一雄
【5万円未満】	磯田 節子	岡部 史典				
	牧野 秀宣	吉水 洋				

2. お名前のみ掲載を希望された寄附者

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

赤星 宏輝[2]	有吉 和夫	石丸 正太郎[2]	岩崎 憲一	上野 敏雄	裏辻 賢昌	遠藤 雅也
太田 美美	大塚 朋宏	大年 倉像	大平 敦男	小笠原長四郎[2]	緒方 優紀[3]	乙葉 修[3]
加来 成器	金澤 祐一	川口 幸洋	北島 美則	許田 重晴	隈 周一	古賀 昭彦
古賀 正明[2]	古賀 十俊	近藤 弘道	坂田 孝輔	相良 勝郎[2]	佐分利 広雄	嶋田 英剛
銭亀 政明	高崎 治夫	滝口 靖憲	多田 義光	辻 正弘[2]	富安 稔	永井 勲[2]
中澤 弘之	中原 敏行	中村 亮一[2]	葉石 眞治[2]	濱崎 欣明[3]	平井 一男	平田 恒春
弘田 澄男	福富 博	福松 明彦	古川 雅通[2]	古瀬 郁也	堀田 博志[2]	前田 博[2]
町田 和美[3]	蓑田 盛行	向井 佑一[2]	向田 敬二	村尾 光政	諸井 三幸[2]	山内 稔
山口 久雄	山下 良平[3]	山田 伸二	山本 博伸[3]	米沢 徹也		
堤化学株式会社[4]						

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されない寄附者

個人60名、1法人・団体等

甲斐原守夫様から3,600万円のご寄附をいただきました

本学薬学部昭和35年卒業生の甲斐原守夫様(熊本市、株式会社宝生薬局)より、熊薬の優秀な学生を育てるために活用してほしいと、年間360万円を10年間、総額3,600万円の奨学金を寄附いただくこととなりました。平成22年10月21日に贈呈式が行われ、甲斐原様より谷口学長へ寄附の目録が手渡され、本学から感謝状と副賞が贈られました。

この奨学金は、熊薬創立125周年記念にちなみ「熊薬創立125周年記念甲斐原守夫奨学金」として、同23年4月から、優秀な入

学生を対象に交付される計画です。

また、同22年10月31日に開催された熊薬創立125周年記念式典で、甲斐原様には本学の運営および経営に顕著な貢献があった人に授与される「熊本大学名誉フェロー」の称号が授与されました。



(右) 前列左より甲斐原ご夫妻、谷口学長、後列左より高濱薬学部長、田口基金担当理事(副学長)

がんばれ受験生

熊本大学は頑張るあなたを応援しています



文学部

- 総合人間学科
- 歴史学科
- 文学科
- コミュニケーション情報学科

教育学部

- 小学校教員養成課程
- 中学校教員養成課程
- 特別支援学校教員養成課程
- 養護教諭養成課程
- 地域共生社会課程
- 生涯スポーツ福祉課程

法学部

- 法学科

理学部

- 理学科

医学部

- 医学科
- 保健学科

薬学部

- 薬学科
- 創薬・生命薬科学科

工学部

- 物質生命化学科
- マテリアル工学科
- 機械システム工学科
- 社会環境工学科
- 建築学科
- 情報電気電子工学科
- 数理工学科

一般入試願書受付 >>> 1月24日(月)～2月2日(水)

熊本大学 チアリーダー部「BLAZES」
五高記念館前にて